

1 単元名 学級活動「やわらかさんを目指そう」

2 目 標 アサーションについて理解し、いろいろな場面で「アサーティブ」に自己表現するためのトレーニングを実施し、さらに日常生活で活用していこうとする態度を育てる。

3 学習計画

(1) 第1回目

ア ねらい

アサーションとは何かを理解し、自己表現の在り方について考えさせ、自分も相手も大切にした表現方法を確認する。

イ 展開

時間	活 動 内 容	指導・援助の留意点〈評〉
5	1 自己表現（自分の気持ちや考えを表す）には、どんな方法があるのかを知る。 ・今回の学習では、コミュニケーション場面における自己表現について学習することを 知る。	・自己表現には絵画、音楽、書道など言語以外にも様々な表現方法があることを具体物など見せながら気付かせる。 （言葉の表現に限定する。）
15	2 日頃の自分たちの会話の傾向について考える。 （貸した物を返してもらった状況を質問する。） ① うまくできていると感じているのはどんなところか。 ・貸した物を「返して」と催促できる。 ・いない物は「いない」と断ることができる。 ② うまくできていないと感じているのはどんなところか。 ・本当の気持ちを素直に言えないことがある。 ・みんなの前で話すことはあまり得意ではないので、「なぜ？」と切り返して話を促してみる。	・日頃の自分のコミュニケーションについて振り返らせる。 （事前アンケートを参考にする。） ・自己表現の仕方は一人一人違うことや、自己評価の判断基準には個人差があり、評価が低い人＝悪い人ではないことについて話す。 ・うまくできていると感じているところはさらに伸ばしていこう、うまくできていないと感じているところは改善していこうという気持ちを持たせたい。 （児童との会話の中で、話題を修正する。）
20	3 代表的な3つのコミュニケーションのパターンについて理解する。 ① 教師モデルのロールプレイを見る。 ② 2人組でロールプレイをする。（役割交代して両方の立場を行う。）	・人と人とのコミュニケーションには、様々なパターンがあり、一人一人が相手やその場の状況に応じた方法を行っていることに気付かせる。 A：非主張的（ノンアサーティブ）な自己表現

	(本を準備する。) ③ ワークシート「この人どんな人」に記入する。 ④ 自分の考えを発表する。 ⑤ 人物の印象をまとめる。 ⑥ 3つのタイプにネーミングを行う。 (例) A：非主張的タイプ→おどおどさん B：攻撃的タイプ→いばりやさん C：アサーティブなタイプ→さわやかさん	相手を大切にするが、自分は大切にしない自己表現のこと。 B：攻撃的（アグレッシブ）な自己表現 自分を大切にするが、相手は大切にしない自己表現のこと。 C：アサーティブな自己表現 自分も相手も大切にした自己表現のこと。 ・誰がAタイプ、Bタイプ、Cタイプというのではなく、一人一人の中に3つのタイプの表現の仕方があることを押さえる。
5	4 学習のまとめをする。 ① 今日の学習で感じたことや気付いたことなどを話し合う。 ② 振り返りカードに記入する。 ③ 今後の学習予定についての説明を聞く。	・実践化への意欲につながるよう振り返る。 ・今後、他者とのコミュニケーション場面で3つのタイプを意識してほしいことを伝える。 ・今後のトレーニング計画についての見通しを持たせる。

(2) 第2回目

ア ねらい

自分の考えをはっきりと相手に伝えることの大切さを、ロールプレイ等を通して、確認したり理解することができる。

イ 展開

時間	活動内容	指導・援助の留意点〈評〉
5	1 人からの要求を断ることの大切さについて理解する。 ○ 「人からたのまれたことを断らないいと、どんな困ったことが起きるだろう。」 ・意地悪をされそう。 ・ストレスがたまる。 ・相手に対して嫌な気持ちになる。	・具体例を挙げながら、要求を断ることの重要性について説明をする。 (例) 遊びの誘いを断る場面 「貸してほしい」という要求を断る場面 ・要求を断ることは、相手を否定することとは違うことを理解させる。 ・要求を断らないと自分の負担が増え、ストレスがたまったり、相手に対して嫌な感情を持ったりした体験を思い起こさせる。
15	2 人からの要求を断る時の表現方法について理解する。 自分が今読んでいる本を、友達から「貸してよ。」とたのまれました。まだ読み終わっていないし、自分も読みたい本なのですが。さて、あなたは・・・。	・「（自分が読んでいる）本を貸してよ。」という友達からの要求を断る場面を設定する。 ・教師がモデルとして、「おどおどさん」「とげとげさん」のロールプレイを演じる。 ・うまくいかないペアがいたら、支援する。

	① 教師モデルの2つのタイプ（「おどおどさん」と「とげとげさん」）のロールプレイを見る。 ② 2人1組になり、教師の演じた2つのタイプのロールプレイを演じる。 ③ 「やわらかさん」の表現方法はどんな方法なのか、2人組でロールプレイしながら考え、発表する。 ④ 人からの要求を断る時の言い方について教師の説明を聞く。	・「おどおどさん」「とげとげさん」のロールプレイをしながら、自分が言ったときと言われたときの感想や印象を確かめるように助言する。 ・前時に学習した、「やわらかさん」の断り方を考え、お互いにロールプレイを行う。 ・児童のロールプレイが終了したら、「人からたのまれたことを断るときの言い方」のポイントを教師が説明する。 ○ 謝罪（ごめんね） ○ 断る理由（前からずっと読みたかった本） ○ 断りの表明（今は貸せない） ○ 代わりの意見（大事に扱ってくれるなら後で貸してあげられる）
20	3 自分たちで状況を設定して、頼まれたことを断るロールプレイを行う。（3人1組） ① 何を頼まれたかを自分たちで決める。 ② 主役、依頼者、観察者の役割を決めて1回目のロールプレイを行う。 ③ 主役の良かった点と改善点を振り返る。 ④ 2人目、3人目も同様に行う。	・「やわらかさんなら、どんな断り方をするだろう。」ということを、児童たちに意識させたい。 ・状況設定がなかなか進まないグループには、普段の生活や会話を振り返らせ、具体的にイメージできるようにする。 ・振り返りの視点としては、「相手の気持ちも大切に」「自分の気持ちも大切に」を第一に考えさせたい。 ・その他の視点として、「表情や態度」などの非言語的な表現にも注目させたい。 〈評〉 友だちの工夫した点を見つけようとしているか。 （ワークシート・発表）
5	4 今日の学習について振り返る。 ○ 今日の学習で感じたこと、気付いたことについて「ふりかえりシート」に記入する。	・要求を断る役をしたときの気持ちや、断られる相手役をしたときの感想や印象を、記入させたい。 ・相手との人間関係をよくするためには、無理なときは断ることも大切だということを理解させたい。 〈評〉 今日の学習を通して思ったことや考えたことをまとめ、ねらいにせまることができたか。 （ふりかえりシート）

(3) 第3回

ア ねらい

自分の考えをはっきりと相手に伝えることの大切さを、ロールプレイ等を通して、確認したり理解することができる。

イ 展開

時間	活動内容	指導・援助の留意点〈評〉
5	1 人と意見が違ったときにも、アサーティブに対処することが大切だということを理解する。 今までどんなことで、人と意見が違ったことがありますか。そのとき、どのようにしましたか。 ○ 自分の気持ちを正直に表そう。 「相手も大切に、自分も大切に」 「やわらかさんなら、どうするだろう。」	・事前アンケートで、人と意見が食い違った場面を集約しておく。 ・意見が違ったときの体験を振り返りながら、意思表示の大切さに気付かせたい。 ・人と意見が違った時に、自分の気持ちを正直に表さないと、相手に自分の考えが伝わらず、ストレスがたまったり、相手に対して嫌な感情を持ってしまうことを思い起こさせる。
15	2 人と意見が食い違ったときの表現方法について理解する。 お母さんが、あなたのために夏用の服を買ってきてくれました。でもあなたは、その服があまり気に入りませんでした。さてどうしますか。 ※ 相手の気持ちを考えて、我慢して着ることが本当にいいことなの？ ① 教師モデルの2つのタイプ（おどおどさんとげとげさん）のロールプレイを見る。 ② アサーティブな表現方法はどんな方法なのか、2人組でロールプレイしながら考える。 ③ いくつかのペアに発表してもらおう。 ④ 人と意見が違ったときの言い方について教師の説明を聞く。	・例として「お母さんが買ってきてくれた洋服とは違う洋服が欲しかった場面」のロールプレイを演じる。 ・教師が「おどおどさん」「とげとげさん」のロールプレイを演じる。 ・「やわらかさん」の言い方を考え、おたがいにロールプレイを行う。 ・児童のロールプレイが終了したら、「人と違う意見を述べるとき」のポイントを教師が説明する。 ○ 相手の考えや気持ちを受け止める。 ↓（母親の優しい気持ちを受け止める。） ○ 自分の考えを述べる。 ↓（別の色の服が欲しかった） ○ 話し合い、折り合いをつける。 （できれば交換したいな。そのときは私も一緒にいくね。）
20	3 各自が考えた場面をもとに、3人一組でロールプレイを行う。 ① 自分の場面を「人と違う意見を述べるときの言い方」に当てはめてみる。 ② 主役、相手役、観察者の役割を決めて1回目のロールプレイを行う。	・ロールプレイするときの会話の見通しを持たせる。 ・実際の場面を想像し、できるだけ現実に近いロールプレイとなるように心がけさせる。 ・「やわらかさんならどんな言い方をするだろう。」ということを、児童たちに意識させて

	→ 行為者のよかった点と改善点を振り返る。 ③ 2人目も同様に行う。 ④ 3人目も同様に行う。	いきたい。 ・「相手の気持ちも大切に、自分の気持ちも大切に」を常に意識させる。 ・人の考えや感じ方は千差万別なので、お互いの考えを出し合い、交流することが大切であることに気付かせたい。 〈評〉 友達の良い点を見つけられたか。 (ワークシート)
5	4 今日の学習について振り返る。 ① 今日の学習をしてみて感じたこと、気付いたことについて話し合う。 ② 振り返りカードに記入する。	・自分の考えを大切にしながら、人と話し合っていこうとする気持ちを持たせたい。 〈評〉 今日の学習を通して、思ったことや考えたことをまとめ、ねらいにせまることができたか。 (ふりかえりシート)

(4) 第4回目

ア ねらい

今までの学習をふり返り、いろいろな場面で「アサーティブ」になるためのセリフを考え、今後日常生活でも活用していこうとする意識を持たせる。

イ 展開

時間	活動内容	指導・援助の留意点〈評〉
5	1 3つの話し方について復習する。 ○ 今までの学習をふり返り、3つのパターンをふり返る。 みんなの中に、「やわらかさん」を育てていこう。	・3つの自己表現のパターンを思い出す。 「おどおどさん」自分はNo, 相手はYes 「とげとげさん」自分はYes, 相手はNo 「やわらかさん」自分もYes, 相手もYes ・「やわらかさん」を心掛けることで、誰でも自分の中に、「やわらかさん」を育てていけることを思い起こさせる。
10	2 「やわらかさん」の話し方ができるように個人でセリフ作りをする。(場面①～③) (予想される場面設定) ① 友達と遊ぶ約束をしたが、友達は現れなかった。連絡もなかった。翌日学校でその友達に出会ったあなたは・・・ ② お母さんは、あなたを見るといつも「宿題しなさい」と言います。あなたはそれをやめてもらいたいと思っていますが・・・	・これまでの学習を土台にして、私たちがもっと「やわらかさん」になれるように、セリフ作りに取り組ませる。 ・児童の事前アンケートから、より児童の実体験に近い場면을、教師サイドから提示できるようにしておく。 ・「やわらかさんになろう」シートを配り、記入していく。自由にセリフを作ってもよいが、主人公が「やわらかさん」で話をするを条件としておく。

	③ 友達に貸したゲームのソフトを、そろそろ返して欲しいと思っています。あなたは どう言いますか・・・	・考えたセリフが、自分にとっての「やわらかさん」になっているか、常に意識させる。その際のポイントとして、「自分の気持ちも素直に伝える。」「相手の気持ちも大切にする。」であることをアドバイスする。 ・次にグループに分かれて、グループ全員で一つのセリフ作りをすることを知らせておく。
15	3 グループで話し合い、グループ内でセリフ作りをする。 ① まず、個人が作ったセリフを発表する。 ② その後、グループでよりよいと思うセリフを作り、ロールプレイをする。 ③ できあがったセリフを、グループごとに黒板に貼り出す。	・グループは5人グループとし、5グループで行う。（生活班を基本としてグループを組む。） ・グループの中で一番いいと思うものを選んで、みんなの意見を合体させてもいいことを伝える。 ・グループで作ったセリフを、模造紙に書かせて貼り出す。 ・黒板に貼り出すセリフは、あらかじめ教師が意図的に指名しておく。
10	4 グループで作ったセリフを発表し合う。	・各グループから代表2名を募り、発表させる。 ・グループから出た意見は否定せずに、児童の考えを聞きながら「やわらかさん」らしいポイントを押さえていく。 ・「こうすれば、もっとやわらかさんらしくなれるかな。」という形でアドバイスをする。
5	5 今日の学習について振り返る。 「おどおどさん」になりそうなとき・・・ 「とげとげさん」になりそうなとき・・・ ちょっと時間をとって「やわらかさん」のセリフを考えてみよう。	・今日の学習を通して、自分で意識的に「やわらかさん」になることができることを確認する。 ・自分と相手の両方を大切にするため、みんなで協力して自分の中の「やわらかさん」を育て、日常生活の中で生かせるように意識を持たせたい。